



発行
平成 17 年 12 月 10 日
相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

文化財愛護
シンボルマーク

～「さねさし」とは、相模国の枕詞です～

文化財調査・普及員第 2 期登録者 として 16 名が新たに加わる！

平成 17 年 7 月に現在の登録者の少ない地域を中心に文化財調査・普及員の第 2 期募集を行い、応募者 21 名にて 9 月 3 日から 10 回にわたり講習会を行いました。

講習会では、文化財ボランティアとして必要な知識などの習得のため、現役の文化財調査・普及員ほかから講義・指導を受けました。

講習会の終了後、第 3 者で構成される推薦会にて、16 名が推薦され、文化財調査・普及員の新たな仲間として加わりました。今後、文化財パトロールや文化財関係事業に活躍していきます。

目 次

- ①・文化財調査・普及員の第 2 期登録者として 16 名が加わる！
・講師のエピソード紹介
- ②・伝えていこう無形民俗文化財「仕事唄のつどい」
・大野南公民館”地域を知る講座”での歴史探訪ガイド
- ③・小冊子「淵野辺の石碑散歩」紹介
・昭和の開拓を伝える「大野台開拓碑」
- ④・大島の湧水マップ
・文化財保護室からのお知らせ

○講師初体験 「相模原の主な遺跡」

西部班 石蔵 政雄

突然、文化財調査・普及員の応募者講習会の講師依頼を受けて驚きました。テーマは「相模原の主な遺跡」で、単なる考古学愛好者にすぎない私には荷が重いと思いました。

しかし、これまで多くの方から指導を受けた考古学を、還元しないといけないとも思い、妻からは「得意なことばかりでなく、苦手なことに取り組むのも良い経験になる」と後押しを受け、生まれて初めての講師を務めました。

9 月 23 日の講義では相模原市内の主な遺跡について、位置・概要などを紹介しました。私の話が受講者にうまく伝わったかどうか心配ですが、市内にも多くの遺跡があることを知っていただけたと思います。



遺跡の話に
耳を傾ける
受講者

○村富神社での実地講習会エピソード

西部班 高野紀江

10 月 1 日（土）午後に、矢部の村富神社にて実地研修を行い、西部班の近内と高野の 2 名で、8 名の受講者に現地の案内を行いました。

○主な案内の内容

- ・村富神社や上矢部新田の由來說明
 - ・市指定有形民俗文化財の獅子頭（3 点）
 - ・見透之松の碑・・・昔神社にあった大松
 - ・力石・・・かつて若者が力比べをした石
 - ・山の神・・・疱瘡の神で、鳥居に向い矢を射て疫病退散を祈った。
 - ・桜・・・日清戦争の戦勝記念として植樹
- その他、境内にある地神塔の調査実習を行いました。普段と違う屋外での講習会に受講者も真剣かつ楽しく取り組んでいました。



地神塔の
調査に夢中
です！

○伝えていこう無形民俗文化財「仕事唄のつどい」

9月19日(月・祝)大島の相模川自然の村公園内古民家園において「仕事唄のつどい」が開催されました。今回は文化財調査・普及員の有志による実行委員会形式で、市の登録無形民俗文化財の「大沼土窯つき唄」「上溝のぼうち唄」が、各保存会会員によって披露・実演されました。

農閑期に雑木林で炭焼きの窯を作る際に唄われたという「土窯つき唄」。土窯に模した模型の周りの畳を叩きながらの実演にかつての相模野の雄大な林を彷彿させられました。

また、「上溝のぼうち唄」は、昭和初期まで脱穀に使用した「クルリ棒」を、”津久井の城が落ちたげな”で始まる唄のリズムに乗って、保存会会員が昔の作業着姿で呼吸を合わせて棒を打ち下ろします。その姿に、炎天下の作業がさぞ辛かったであろうと想像するだけで汗が噴き出す思いでした。

保存会の披露・実演の後、参加者による体験が行なわれ、簡単に見えるクルリ棒を持って余しのけぞっ

仕事唄のつどい実行委員長 西田 紀子

てしまう人、藁でよった縄をもらい嬉しそうに持ち帰る小学生、俵編みの実演に見入る男性、さらに屋内では仕事の合間に食べたという「サツマダンゴ」作りの体験・試食など、高齢者には懐かしく若者には珍しい貴重な体験に、延べ300人ほどの方が参加しました。

今回実行委員として企画から関わり、ともすれば消えてしまう庶民の生活文化を保存・継承していくのに地道な努力がいかに大切かをしみじみ感じました。これからも「仕事唄」だけでなく、市内の文化財の過去から現在、未来への継承に一役荷担えるよう取り組んでいけたらと思います。



参加者を交えての
土窯つき唄

○大野南公民館”地域を知る講座”での歴史探訪ガイド 東南班

大野南公民館主催”地域を知る講座 相模大野知られざる素顔”の歴史探訪ガイドの依頼を受けました。

日時 平成17年10月15日(土)

午前9時30分～12時30分

テーマ 相模原南部開拓の”よすが”を訪ねる

一谷口新開・中和田新開・中村新開など

参加者 25名

コース 約6キロ 大野南公民館→行幸道路→

渋谷駒吉氏子孫宅→府中道→磯部道→篠

原新開→二宮神社・中和田新開記念碑→

道祖神→鈴木酒店と屋敷内稲荷→たつ街

道→中和田新開開

係者墓地→水道み

ち→東林間神社・白

笹稲荷神社→中村

新開拓殖碑→畑地

灌漑用水跡(相模緑

道緑地)

→大野南公民館



二宮神社にて

今回のガイドは、テーマに沿って、上鶴間村の開拓の歴史と道を中心に行いました。

- ・9時半公民館に集合。今にも降り出しそうな天気。資料を配布し、コース等の概要説明後、出発。
- ・渋谷駒吉氏子孫宅で、4代目正孝氏の説明と開拓当時からある井戸を見学。
- ・道すがらそれぞれの道の由来を説明後、二宮神社で神社・電信第一連隊・篠原新開の歴史の説明と中和田新開記念碑の碑文を解説。
- ・開拓関係者の墓地のある松ヶ枝公園で休憩後、水道みちを経て東林間神社・白笹稲荷神社で由来説明。
- ・中村新開拓殖碑で碑文解説後、畑地灌漑用水跡を通り公民館へ。

午前中のあわただしい行程でしたが、先人の開拓の労苦を知り、もう一度私たちの街を見つめなおす良い機会でした。

●中村新開開拓の平出富士太郎の歌碑

「まきつけし 一粒麦も かさぬれば

いくまん石と つづるいしずえ」

(記・安岡)

○小冊子「淵野辺の石碑散歩」を作成

東部班

東部班では、去る10月に「淵野辺の石碑散歩」の小冊子を作成し、各班に1部ずつ配布しましたが、もうご覧いただけただでしょうか？

さて淵野辺地区には、新旧合わせて20基もの銘文が書かれた石碑があります。それらは、この地区における先人の偉業、かつての施設などの伝承、現存する神社などの由来、墓誌、記念碑などで、何れの石碑も後世の人々に伝えるために創られたものです。しかしながら、これらの石碑は様々な場所に建っており、ほとんどの物がゆったりと銘文を鑑賞し、古に思いを馳せる環境になく、また、碑文も見づらい状況にあるのが現状です。このため、別の環境でゆっくりと吟味していただくためにこれらの石碑の銘文を紙上に転記するとともに、石碑の散策に役立つようにと場所と地図上の表示およびバスなどでの行き方、また携帯容易とするためA5版の小冊子とし、更に銘文の理解に繋がる内容を参考事項として記述しました。なお、銘文の転記にあたっては、使用されている漢字を出来るだけ忠実に記述することに努めました。表現出来ない文字や明らかに異なる文字、また判読出来ない文字については赤字で注記し、現在最も近いと思われる文字に置き換えて表現しました。しかしながら、実際には石に刻むために形状を変えた文字も多くあり、完全に銘文

を表現できていないのが現状です。

また、この小冊子を編集するにあたり、どのパソコンでも見られるようにと、作成した文面をデジタルカメラと同じデータに変換し、容量も7MB程度に押さえ、メールなどでの配布を容易にしました。今回作成した資料は、まだまだ内容的に未完成な部分や記述の間違いなどもあるとは思いますが、今後の普及員の活動において少しでも参考にしていただければ幸いです。

「淵野辺の石碑散歩」をはじめ、文化財調査・普及員東部班で作成した淵野辺、古淵、鶴野森、大沼、大野台の「文化財散歩」については、近日中に淵野辺の市立図書館でも閲覧可能になる予定です。
(記・市橋)



淵野辺の石碑散歩

○昭和の開拓を伝える「大野台開拓碑」

東部班

相模原市は江戸期の新田開発、明治期の新開がよく知られています。ところで、大野台地区には、当地が昭和時代に開発されたと伝える開拓碑が二ヶ所に建てられています。

「大野台御嶽神社」の沿革を記す御嶽神社境内に建てられている碑には、現在の国道16号線沿いの南側地域は、「昭和16年に、北海道からの先駆開拓者が山林を開拓し営農をはじめ、そこに京浜地区から疎開した人々も加え、戦前・戦後をつうじ食料の増産に寄与する。戦後心の拠り所を求め、皇武神社から分神して御嶽神社を創祀」と刻まれています。

また、大野台4丁目周辺は、「日本の敗戦により帰国した中国東北部（旧満州）開拓者と一部国内企業整備による転業者、および県内外開拓者等により編成された開拓団により、昭和22年から、山林だった当地の開墾が始められた」（『大野台第

2自治会の歩み』による）と記録されています。開拓の足跡を伝える神奈川開拓団の「開拓記念碑」が、昭和43年に大野台第2児童館の敷地内に建てられました。

わたしたちの今ある生活は、祖先の血のにじむような労苦の上に築かれていることを決して忘れてはなりません。ふたつの碑は、そんなことを



今に伝えていきます。先人の努力を思い感謝する日々でありたいものです。
(記・宮下)

開拓を伝える御嶽神社の碑

○大島の湧水マップ

北部班



* 次号以降も各地区の文化財マップを紹介します。ご要望があれば、大島地域をはじめ各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護室までご連絡ください。

今夏の「大島鏡の滝～水郷田名相模原散策」巡りでヤツボと鏡の滝を見学しました。ヤツボは、相模川沿いの相模原市最北部境松付近から古清水にかけて、田名原面段丘と相模川河床間の段丘崖急斜面に所在する段丘崖から湧き出る清水を壺池状に溜め、生活用水として使用した所です。平成9年～10年の相模原市立博物館の調査では、水道の普及と共に廃止されたりコンクリートで固められたりしたものを含めて11ヶ所が数えられ、笹野邦一著「おおさわ風土記」でも大島の八ツ壺として7ヶ所が紹介されています。これらの中で特に、①“中の郷のヤツボ”には水神“八大龍王”が祭られています。また、②“水場のヤツボ”は、日々神社のご神水であり、市内では珍しい俱利伽藍不動が祭られ、“鏡の滝”に流れ落ちています。さらに、③“山口(H)家のヤツボ”は横穴の中にあり弁天様が祭られ、明治～昭和初期には飲料水以外に、水車を回して生糸の撚糸用動力としても使用していたそうです。現在でも、冬は暖かく夏は冷たいことから西瓜・ビールを冷やしたり、洗い物やポンプでくみ上げ畑の散水等に使用されています。(記・駿河)



山口(H)家のヤツボ

文化財保護室からのお知らせ

勝坂遺跡の追加指定、中村家住宅主屋を市内初の国登録有形文化財にするよう答申が出る！

11月18日に文化審議会が文部科学大臣に対し、勝坂遺跡の史跡追加指定と磯部の中村家住宅主屋を国登録有形文化財とするよう答申しました。

史跡追加指定の答申が出た勝坂遺跡は範囲確認調査の結果、縄文時代中期の住居跡が確認された勝坂A区3,797㎡で、大正15年に大山柏氏が発掘調査を行った台地です。また、磯部の中村家住宅主屋は幕末の和洋折衷住宅で、建築当初は3階建て（現在は2階建て）の全国的にも貴重な建造物です。

今後の文化財普及事業のご案内

木枯らしの吹く寒い季節になりましたが、今後も各種文化財普及事業を予定しておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。主な事業は次のとおりです。詳しくは広報さがみはら等に掲載します。

- 古民家園事業「お餅つきと初春の草花」1月7日（土）午前10時30分～古民家園（大島3853-8）にて
…昔ながらの餅つきと春の七草観察に、ご家族そろってお越しください。
- 第31回相模原市文化財展 2月10日（金）～12日（日） あじさい会館6階展示室にて
…市内の文化財研究団体6団体が展示発表を行います。文化財調査・普及員石造物班も参加します。
- 第26回相模原市民俗芸能大会 2月12日（日） あじさい会館1階ホールにて
…合併にちなみ津久井町、相模湖町の代表的なお囃子の他、市内の民俗芸能保存団体が出演します。



中村家住宅主屋（正面）